

2023年度愛知県環境審議会廃棄物部会会議録

1 日時

2024年2月27日（火）午前10時から正午まで

2 場所

愛知県三の丸庁舎 地下1階 B101会議室

3 出席者

委員5名、専門委員3名

説明のため出席した者17名

4 会議の概要

(1) 開会

ア 会議開催の定足数について

定足数を満たしていることが確認された。

イ あいさつ

伊藤資源循環推進監

高橋部会長

ウ 傍聴人について

傍聴人1名

エ 部会長代理について

高橋部会長から、谷川委員が部会長代理に指名された。

エ 会議録の署名について

高橋部会長から、長田委員及び中山委員が会議録署名人に指名された。

(2) 議事

ア 報告

- ・一般廃棄物及び産業廃棄物の減量化状況について
- ・愛知県廃棄物処理計画（愛知県食品ロス削減推進計画）の施策の実施状況について
- ・サーキュラーエコノミー推進プロジェクトチームの取組について

イ その他

特になし

事務局から資料説明し、別記のとおり質疑応答が行われた。

(3) 閉会

1 議事

(1) 報告

- ・資料1 一般廃棄物の処理状況及び目標の達成状況（令和3年度）
- ・資料2 産業廃棄物の処理状況及び目標の達成状況（令和3年度）
- ・資料3 愛知県廃棄物処理計画の目標値と2021年度実績の比較
- ・資料4 愛知県廃棄物処理計画の施策の2023年度実施状況
- ・資料5 サーキュラーエコノミー推進プロジェクトチームの取組報告
について、事務局から説明した後、質疑応答が行われた。

<質疑応答>

※資料1から資料3の説明後

【谷川委員】

愛知県全体の一般廃棄物と産業廃棄物について確認したい。前提として、今回は令和3年度の集計ということで、新型コロナウイルス感染症が流行していた中のものと認識している。

まず一般廃棄物について、9割が減量化もしくは資源化されているが、減量化としてはそのうち殆どが焼却されていると思うが、焼却、脱水など減量化の内訳をどこかに記載していただきたい。基本的に焼却の場合はエネルギー回収等があり相殺されると思うが、実質的にはCO2は排出していると思うので、そのことについてもどこかで記載されると良い。

また、資源化に関し、資料1の図1-2のごみ処理経費が掲載されているが、資源化したものの売却や発電した電気の売電収入については処理費と相殺されているのか。

なお、資源物の売却については、特に一般廃棄物の場合、集団回収が行われており、これらの収入は回収できているのか。例えば県内の資源の販売量と回収量が一致しているのか。金属資源は近年価格が高騰しており、その売却費用をしっかりと回収しないと、なかなか経費の総額・実態がわからない。単純に処理に要した費用だけではなく、発電や資源化による収入も踏まえた処理費用というものがなかなか見えてこない。

産業廃棄物については、県内の企業が非常に努力されていて、他県に比べてかなり高い割合で資源化が進んでいる。産業廃棄物は一般廃棄物の10倍くらいあるわけだが、同様に、脱水や焼却などの減量化するときに、エネルギーを利用するため、この面をどのように反映していくか考え方について聞きたい。

【事務局】

一般廃棄物のうち減量化の状況は、図1-4ごみ処理の流れという表に記載している。

焼却は、可燃ごみとして収集されたものの焼却が約180万トンで、破砕などの処理を経て、焼却の方に回ってくるのが約11万4000トンである。これが焼却灰となって最終処分されるのが約13万5000トンとなる。また、表で下の方に資源化される量が記載されてお

り、その差が減量化量となっている。

処理経費としては、資源化したものの売却費や売電収入を含まず、施設の建設費や収集・処理に要した費用等を示している。

また、その他の実際に資源化されている量については、先程、資源化率が横ばいと説明したが、近年、民間事業者により、古紙などの独自に行われる資源物の回収が盛んになっている。また、金属価格の高騰を受け回収事業が行われるようになったり、企業が CSR として製品の自主回収を行うなどの取組も見られる。しかし、こうしたものは、全国統一で行う従来の調査では把握できない部分である。このため、国に改善の必要があると進言もしているが、本県では、再生利用率調査として、こうした民間事業者へのアンケート調査等を行うことにより、実際の再生利用率を推計しており、その結果、実際のリサイクル率は 24.7%に相当すると考えている。

なお、事業者による資源化のうち、特に金属については有価物となるなど、廃棄物としての規制の枠外となるため、把握することは難しい。また、新型コロナウイルスの影響により、地域の廃品回収などの集団回収が減少している現状にある。

産業廃棄物については、資料 2 の図 7 に発生量ということで全体を集計しており、そこから有価物量と排出量で分けている。有価物量の割合は変わらない。再生利用量と有価化物を合わせた資源化量という数字が、実際に産業廃棄物として排出されたにも関わらずまた上流に戻るといった状況であるので、1～2%の増減はあるものの、全体の割合としては平成 26 年度から大きな変動はない。

【谷川委員】

焼却の減量化量は基本的に大気への排出量となるので、そこは今無償でカウントされているが、例えば施設の CO2 排出量に対して確認できるように記載した方がよい。

【吉田委員】

廃棄物処理計画が国の循環型社会形成基本計画を実現する位置付けにあるものであれば、指標の 1 つに入口側の循環利用率があったように思うが、別の計画でモニタリングしているのか。あるいは本日の資料に記載された数値から計算できるのか。

【事務局】

本県が目標として掲げているのは廃棄物処理計画という、法律に基づき定めたもので廃棄物を対象にしており、出口側の循環利用率、再生利用により、愛知県では廃棄物がどれくらい川上に持っていつているかを把握しており、ご指摘のあった入口側の循環利用率というのは、国の循環型社会形成推進基本計画に掲げられており、循環型社会の形成やサーキュラーエコノミーへの転換を図る意味では、その観点での資源の投入や、廃棄の量を把握し、取り組みを進めることが重要であるということは認識している。今ちょうど国で次期循環型社会形成推進基本計画の策定に向け審議が進められているので、その計画に示された内容、例えば物資フローの数値や自治体に求められている施策の内容を確認したうえで、2026

年度に策定する予定の次期廃棄物処理計画にそのような指標を取り入れるよう、委員の皆様
様の意見を踏まえながら検討していきたい。

【吉田委員】

基本は資源循環推進課の範囲で、今後検討されるということで承知した。

【谷川委員】

入口側出口側の循環利用率を把握するのは当然で、廃棄物部会というくくりが50年前か
ら変化がなく、愛知県は遅れている。これについては環境審議会本体で話をしていきたい。

入口側やこれから廃棄物になるもののポテンシャルを考えていかないと今の時代に沿わ
ない。

※資料4、資料5の説明後

【土井委員】

様々なステークホルダーがいると思うが、実践する立場である事業者やその先にいる消
費者、生活者を取り残さないようにしてほしい。

例えば活動を推進することで消費者の生活がよくなったり事業者が儲かったりするなど
自分ごとに思えることが必要なのではないかと考えている。

また、未来を生きる子供たちは県民・経済の中心でもあるので、主体の一つとしてとらえ
てほしい。

例えば、現地で現場を体感しながらの環境学習や現物を利用してのワークショップで、何
が目標で何のために取り組むかということを経験して、一人一人が関わっていくことで、持
続可能な社会づくりにつながると思う。

【事務局】

ビジネスが成り立つためには、消費者に受け入れられないと進まない。環境に良いだけで
はもう売れないというのはわかっているので、サーキュラーエコノミー推進プロジェクト
チームでは、価格もそうだが、高機能でファッション性のあるものを作っていくとしてい
る。

消費者に受け入れられて初めて循環の環が広がり、サーキュラーエコノミーも浸透して
いくと考え取り組んでいるので、今後、製品化に向けて事業化できるようしっかりと進んで
いきたい。

また、環境学習については、動画作成等に取り組んでいるが、目標を明確にしながらどう
いった形で人材育成に繋げていくことができるかを見極めながら進めていきたい。

【土井委員】

自分も何か消費をするのであれば、素敵なものを買うことで環境にも自分にも良いとい
う視点で買い物をしているので、何か素敵なものができるのを楽しみにしている。

【佐藤委員】

資料4の施策4非常災害時における処理体制の構築について、能登半島地震で今問題になっているのは災害廃棄物処理であり、熊本地震や阪神淡路大震災の時もそうであったが、毎回災害廃棄物処理の遅れにより様々な対応が遅れている。

南海トラフ地震を想定した時に、愛知県の地域性、地理的な特徴及び過去の事例を踏まえて防災対策と廃棄物処理に関する対応をしっかりとっていただきたいが、現状はどうか。

【事務局】

県では災害廃棄物処理計画を策定している。災害廃棄物は法律上一般廃棄物に分類され、各市町村が処理の主体となる必要があることから、各市町村にも災害廃棄物処理計画を策定するよう県から促しており、本県は全市町村が災害廃棄物処理計画を策定している。

しかし、実際の発生予測やその準備となると、例えば一時仮置き場の問題があり、石川県でも問題となっているが、仮置き場がないと発生した災害廃棄物の搬出・処理に支障が生じてしまうこととなる。現状では、発生予測量に対する仮置き場の確保状況は自治体によって異なっており、十分な確保について、研修や会議の場で市町村に対して助言している。

処理施設については、処理量に余裕があるところは少ないため、広域的な連携体制により対応することとしている。また、環境省中部環境事務所が中部地域における広域の連携体制を作っており、今回の能登半島地震でも、この体制により広域的な支援が要請され、それに応える形で支援を行っている状況にある。

また、先程説明をした市町村に対する研修としては、市町村職員に対し、実際災害が起こったことを想定し、どのように動けばよいか、ゲーム的な要素も入れた図上演習を行うなど、様々な段階の研修を行って実際に対処する職員の知見・技術の向上を図っている。

【谷川委員】

サーキュラーエコノミー推進の取組は非常に重要である。特にサーキュラーエコノミー推進プロジェクトチームを通して、事業化を含めてライフサイクルのことを考えつつ、新しい事業を起こすという取組は、特に先導的である。

その中で、チーム間での情報共有や相談はされているのかと、このプロジェクトができた暁には、例えばこの廃棄物部会的な視点から見ると、廃棄物がどれぐらい発生抑制されたかみたいな評価指標があって評価されるのかを聞きたい。

【事務局】

チーム間の連携について、今年でチーム発足から2年目になるが、全体会合を年1回は開催している。今年度は、3月に実施予定で、進捗状況を各チームで報告しつつ互いに情報共有して意識を高めていく。チームのメンバーの連携というのは結構進んできている。例えば、本課の事業でメッセ名古屋の出展支援をしているが、チームメンバーが出展して、他のメンバーを紹介するとか、そういった形で新たなビジネスに向けた事前調整が行われるなど自主的に連携しているところもある。

指標について、目に見える形で指標化したいが、有価物としてビジネス市場で取引が成り立つものもあるので、循環利用率などの廃棄物処理計画上の数値と一致させるのは難しい。

ただ、どこまでできるかわからないが、製品化したものがどれだけ資源循環に適しているのか CO2 の見える化のような数値化をする仕組みは作りたいと思っており、今後の課題と考えている。

【佐藤委員】

サーキュラーエコノミーに関して、非常にすばらしい案だとは思いますが、現実的なことを考えたときに、実際にビジネスとして成り立たなくてはいけない。

そのときに、コストの問題が大きくて、事業者としてもおそらく高いと思う。結局運用できなくて赤字になってしまうのではないかな。なるべくシステムが低コストで進めるようなことがないと、なかなか広がらず理想論で終わってしまう。

【事務局】

お見込のとおりコストは高いのが現状で、普通のビニル袋が 100 倍する値段でしか製品化できないこともある。しかし、欧州では新車のプラスチック部品は 25%以上リサイクル樹脂を利用するという規制の動きがあるのも事実である。

モノづくり県として、高いからできないと放置して遅れをとってはいけないと考えている。技術力を高めつつ、それが市場に出回るようになれば、コストダウンも図れるのではないかなという思いで現状の取組を進めている。

世界に遅れを取らないような循環モデル、長寿命化等を目指し、拡大発展させながら、順次検討を進めて、市場性のあるものをつくり上げていき、皆様に報告したいと考える。

【吉田委員】

今の話について、研究段階だとは思いますが、製品化して導入されたときに、J-クレジットで CO2 の排出削減量を売却すると、削減分が見える。そのような仕組みを利用する以外に、リサイクルコストをかけて静脈を評価することは困難だと思うが、その取組予定はあるか。

プロジェクト評価の仕方、コストとコストメリットだけではなく、そのメリットの部分のところに CO2 排出量削減を含んだ価格設定で、売却益が入る可能性について検討する予定はあるのか。

【事務局】

コストの設定については、プロジェクトチームの参画事業者が個別で設定している。

その中で、J-クレジットの利用を検討している事業者や補助金の活用により低コストに抑えることを検討している事業者もある。また、国でもサーキュラーエコノミー型製品が認められていくために、どのようにその価値を認めていくのかという議論が進んでいる。

県でもその動向を注視しながら、サーキュラーエコノミー型製品が認められていくよう支援し、低コスト化につなげたい。静脈産業の方は引き合いが結構あるので、そこに期待し、

製造者との連携をより一層深めて、低コストで市場性のあるものをつくっていきたいと考えている。

(2) その他

- ・事務局から追加なし
- ・委員から議題追加なし